

第3章 掛川市の歴史文化の特徴

第1章から第2章に記載した本市の自然・社会・歴史及び文化財の概要から、以下のとおり本市の歴史文化の特徴を示す。

本市には小笠山を中心とした特徴ある自然環境があり、古代の遺跡は遠江の中でも独自色をみせ、東西・南北の交通とまちの形成がみられる。戦国時代には有力大名の戦略拠点として城や砦が築かれ、攻防が繰り広げられた。江戸時代になると、城下のまちを中心に教養が広まり、茶業など生業の伝統を育み、豊かさを願う祭礼が行われてきた。この7つの事項に関する歴史文化を取り上げる。

本市は、日本列島のほぼ中央もしくは東海地方の静岡県の中にあり、そのことは歴史文化の特徴にも当然反映されている。その一方で、国府もしくは県庁所在地や大都市とはちがった環境で育まれた掛川市らしさも見出すことができる。

1. 温暖な気候と小笠山を中心とした自然の歴史文化
2. 遠江での独自色をみせる古代の歴史文化
3. 東海道・秋葉街道と日坂・掛川・横須賀のまちの歴史文化
4. 掛川三城の歴史文化
5. 二宮金次郎の報徳と教養の歴史文化
6. 自然の恵みが育む掛川茶と産業の歴史文化
7. 豊かな暮らしを願う祢里と屋台による祭礼の歴史文化

1. 温暖な気候と小笠山を中心とした自然の歴史文化

本市は、日本列島中央の太平洋側、静岡県西部に位置する。県内各地と同様に温暖な気候であり、北方の南アルプスから平野を介して南方の遠州灘に至る地形を有するが、本市ではその間に小笠山がある。この地形の特徴から多彩な自然環境が形成され、それらは今も山々や干潟に見ることができる。

現在、その多くが自然を学ぶ場や憩いの場として人々に親しまれている。

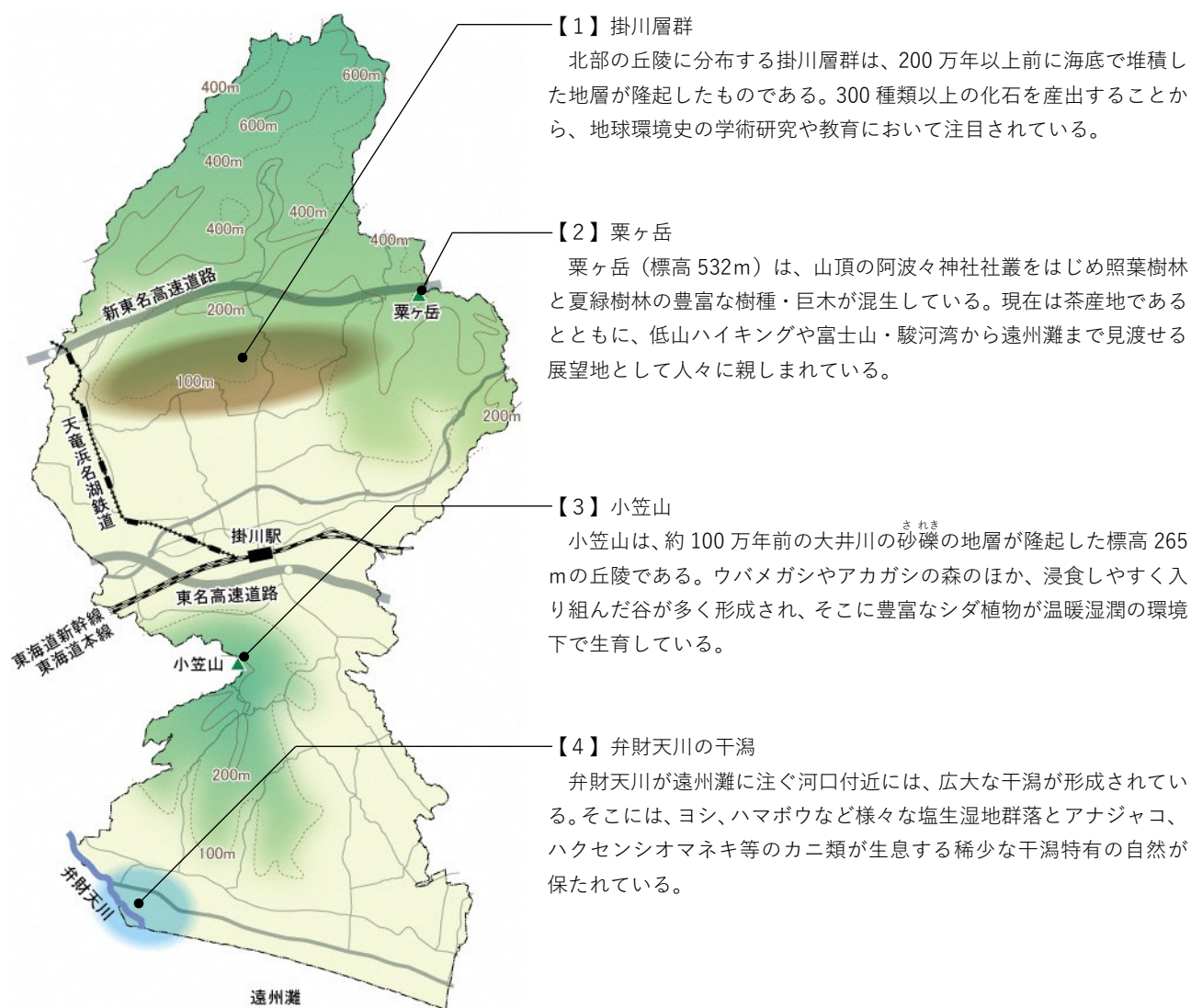


図 3-1 関連する主な文化財の位置図

2. 遠江での独自色をみせる古代の歴史文化

本市域は、古代の行政区分では東海道の遠江国に属し、奈良時代から平安時代の郡家の存在を示す遺跡や国府などに焼き物を供給していた窯跡群が発見されている。

一方、国づくりはそれ以前から地域を治める有力者を中心に進められており、遠江の地域でも後に国府が置かれる磐田市域を中心に、ヤマト王権と同じ特徴を持つ前方後円墳や横穴式石室の首長墓が築造されている。しかし、その東側に位置する本市では、前方後円墳の首長墓に在地色の強い埴輪を並べたり、横穴式石室ではなく横穴墓が普及して首長墓にも採用したりといった、他の地域とは異なる独自色がみられる。

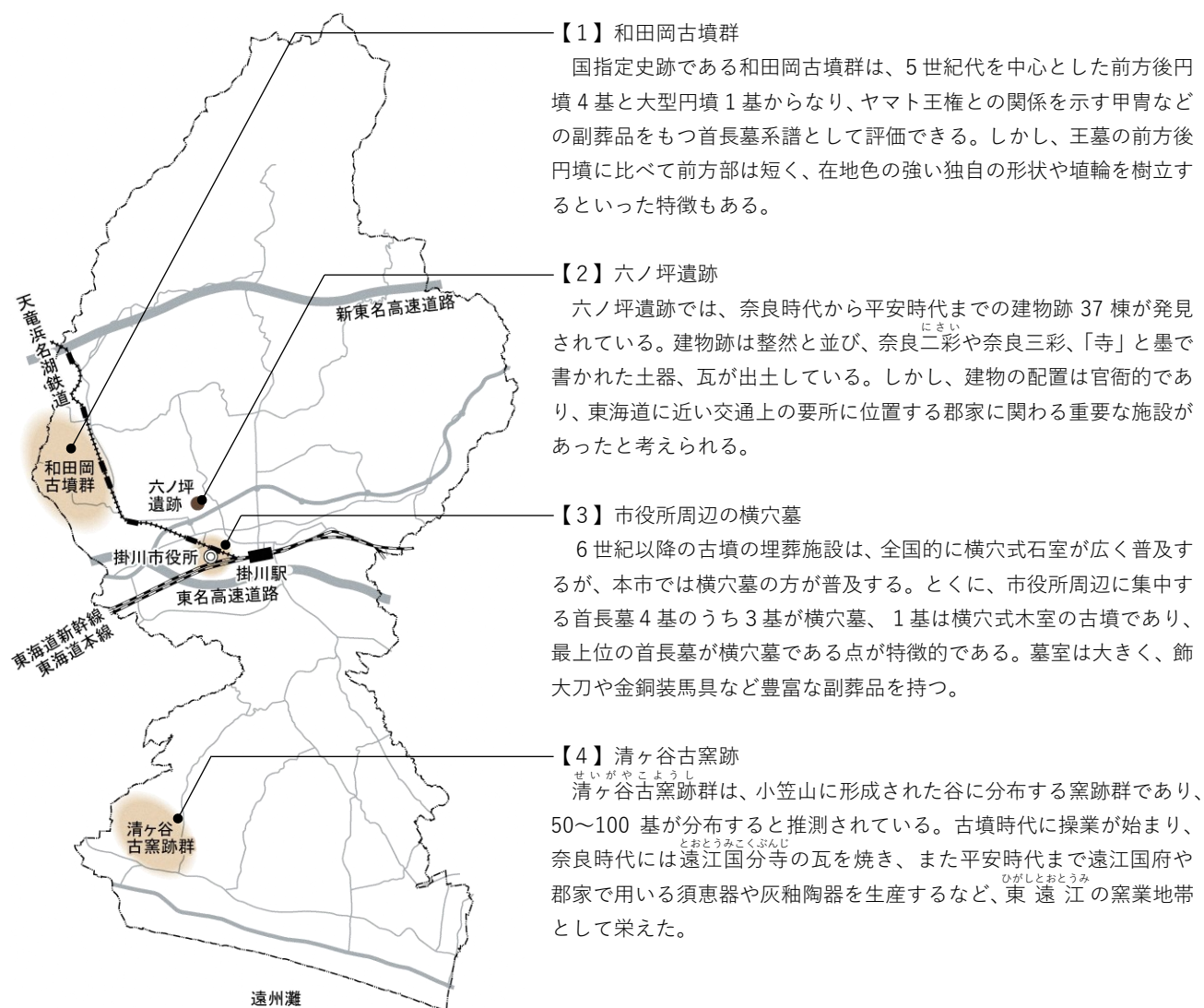


図 3-2 関連する主な文化財の位置図

3. 東海道・秋葉街道と日坂・掛川・横須賀のまちの歴史文化

本市では、近世までに東西方向をつなぐ東海道と横須賀街道、南北を結ぶ秋葉街道などが整備されてきた。これら街道沿いには、拠点となる宿場が置かれ、それらを中心に日坂、掛川、横須賀といった宿場町や城下町がつけられた。それぞれの地域には、往時の面影が残っている。

街道は年貢米や塩の輸送に活かされ、沿道のまちの経済を支えた。また、旅人が行き交い、峠越えの難所である小夜の中山道は、古代より歌に詠まれた。塩の道でもあった秋葉街道は、人々の信仰を集めた秋葉山に詣でる道として発展した。

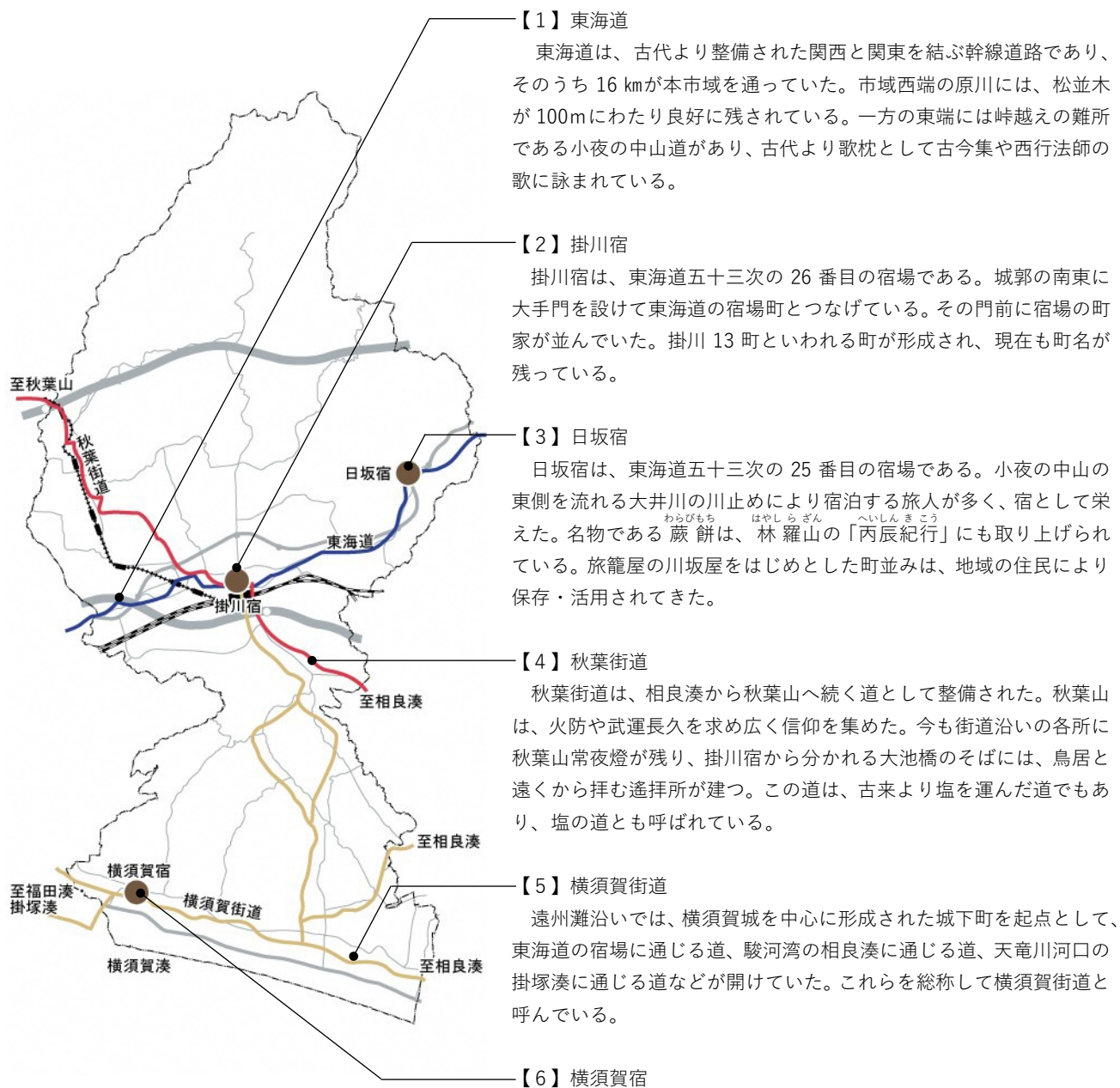


図 3-3 関連する主な文化財の位置図

4. 掛川三城の歴史文化

戦国時代の市域は、駿河の今川氏^{か い}、甲斐の武田氏^{み か わ}、三河の徳川氏といった有力な大名に囲まれ、各大名の戦略拠点として掛川城、高天神城、横須賀城をはじめとする城や砦が築かれ、攻防が繰り返された。太平の世になると、掛川城は掛川藩、横須賀城は横須賀藩の中心として、城下町とともに整備され、地域の政治・経済、文化の拠点を担った。

現在、この3つの城跡は、「掛川三城」と銘打たれ、地域のシンボルとして親しまれている。



図 3-4 関連する主な文化財の位置図

5. 二宮金次郎の報徳と教養の歴史文化

江戸時代に困窮した村々を救うため、二宮尊徳（金次郎）の報徳の教えを豪農岡田佐平治、良一郎親子等が学び、広げた。村々には報徳社が組織され、ため池の整備などにより農業改善が図られた。教えは、商人にも広がり、地域振興や藩校の設立にもつながった。掛川藩校は「徳造書院（後の教養館）」と称し、日本において最初に「教養」という言葉が使われた。藩士以外の身分の者も学ぶことが許され、文武だけでなく礼儀が重んじられた。ともに価値を認め合い、広く知識を持ち暮らしていこうとする市民の意識の源がここにある。

現在、全小学校 22 校と中学校 4 校などに二宮金次郎像が立ち、小中学校では「かけがわ道徳」として報徳の教えを学ぶ。この教えは、JR 東海道新幹線掛川駅の設置や掛川城天守閣の復元、掛川駅木造駅舎保存活動などに見られる市民の活動など、自分の人生を豊かにし、わが町をより良くする生涯学習運動につながっている。

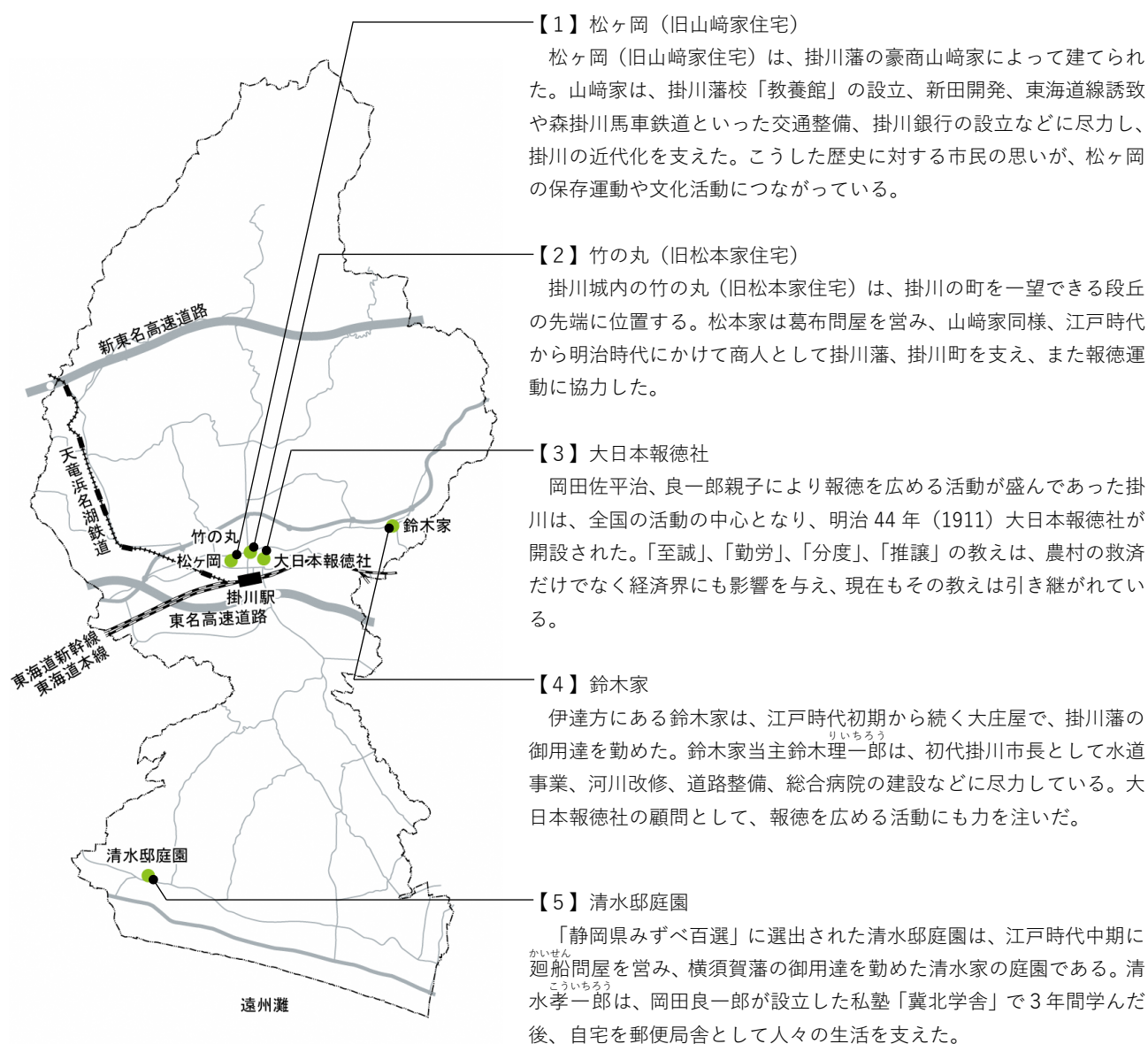


図 3-5 関連する主な文化財の位置図

6. 自然の恵みが育む掛川茶と産業の歴史文化

本市は温暖な気候で低山に囲まれているが、小規模な河川しかないことから、水田を潤す水資源の確保が大きな課題であった。江戸時代には、ため池を多く整備して困窮していた村々の農業改善を図った。また、掛川茶を代表として、地域の自然環境を活かした特産品の生産や伝統的な製法による商品の製造が各地で行われてきた。本市には、ここでしかない名品がバラエティー豊かにそろっている。



図 3-6 関連する主な文化財の位置図

7. 豊かな暮らしを願う祇里と屋台による祭礼の歴史文化

本市では多くのまちで、平穏と繁栄を祈り、感謝する祭礼が行われている。その多くは、江戸時代から宿場や城下である日坂・掛川・横須賀に始まり、次第にその他の地域にもそれぞれ伝わったものである。春の祭礼では、一年の豊作や疫病を防ぐことを願い、秋の祭礼では、農作物の収穫に感謝し、地域が一つとなり祭礼を行っている。

本市では、華やかで大きな屋台や祇里もしくは山車を大人数で曳き回し行うことが特徴的である。祭礼をととして住民の交流を深め、そこに暮らす幸せを感じ、歴史あるまちの伝統と誇りを次世代につないでいる。

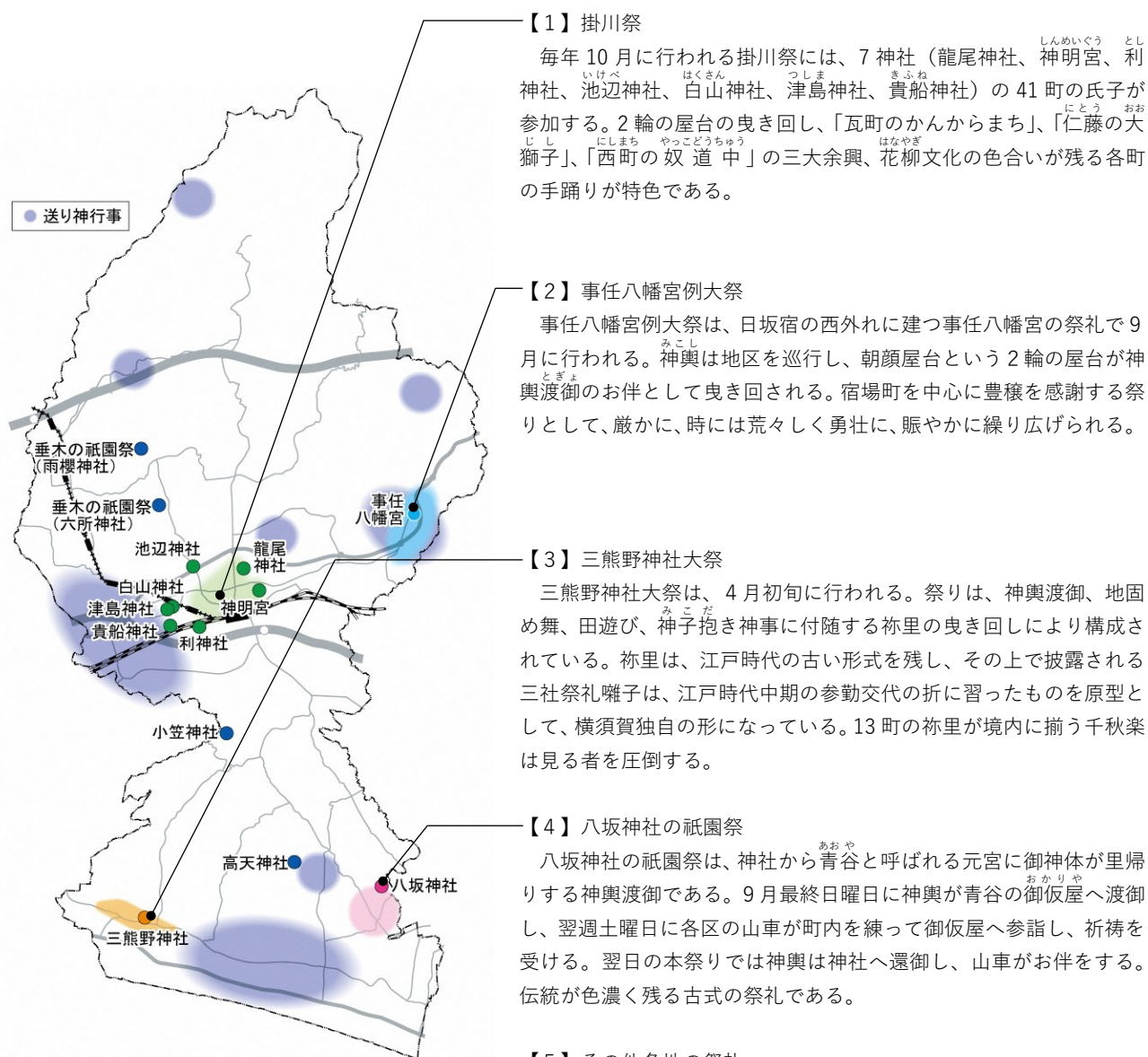


図 3-7 関連する主な文化財の位置図

